

第三者評価結果

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
【A1】	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a
<コメント> 理念や方針に基づき、しらかば逗子乳児保育園の全体的計画を作成し、乳児に望ましい保育を実践している。子どもたちの発達状況に応じて、職員の配置にも配慮している。保育所保育指針に基づき、月齢に合わせた保育を行っているが、更に細かく、子どもたち一人ひとりの保育目標を設定している。小規模の特性を活かし、子どもの心身の状況を踏まえ、一人ひとりの子どもと深く向き合いながら、保育を行っている。		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
【A2】	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
<コメント> 園は住宅地の中にあり、静かで日当たりもよく、近くに公園もあり、子どもたちはのびのびと身体を動かしている。海が近いので気候も温暖で、子どもたちは薄着で日々を過ごしている。園内に月齢に合ったおもちゃや絵本等を揃え、園庭には砂場を作り、滑り台やトランポリン等の遊具を置き、芝生の上で十分に遊ぶことができる環境を整えている。乳児が対象の園で、子どもたちはおもちゃ類を口に入れることが多いので、毎日消毒を行い、園内外とも安全に配慮した環境としている。午睡時には、換気や温度、湿度等を常にチェックしている。職員はクラス担当制を取っているが、その日の子どもたちの状況に応じて、柔軟に対応している。毎日の調整会議等を通し、職員全体ですべての子どもたちの状況を共有し、子どもたちが安心して一日を過ごすことができる保育を提供している。		
【A3】	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<コメント> 小規模保育の特性を活かし、一人ひとりとの関わりの時間を多くとり、職員全体で子どもたちの状況を把握している。子どもたちの主体性を尊重し、行動を急がせる言葉の使用は極力避けている。食事の場面では、1歳児は自分でやりたい気持ちを大切に、手づかみで食べる子どもは見守りながら、そっとスプーンを渡してみたりしている。外に出る時に、一所懸命自分で靴を履こうとしている子どもには、「すごいね、上手ね」等と励ましながら、子どもの気持ちを尊重して、関わっている。言葉をうまく出せない0歳児には、「これは〇〇ネ」等、言葉を引き出す関わりを持ち、話すことの楽しさを伝えている。子どもが泣き出してしまった時には、優しく抱き上げてスキンシップを多く取り、「どうしたの?」と子どもの気持ちを聴き出すようにしている。		

【A4】	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>個々のトレイに主食や副食を盛り、献立を説明して、「いただきます」の挨拶の後、食事をしている。0歳児は職員に食べさせてもらう子ども、手でつかもうとして見守りが必要な子ども等がいて、保育士と一緒に食事をしている。1歳児はほとんどの子どもが手づかみかスプーンを使って自分で食べている。お代りを何度もする子どもの対応をしながら、職員も一緒に食事をしている。食事が終わる頃には、椅子で眠ってしまう子どももいるが、そっと抱きあげ、他の子どもに絵本の読み聞かせをしてから、午睡の準備に入っている。午睡時には、静かな音楽をかけ、安眠できるようにしている。0、1歳児は全員おむつを使用しているので、濡れている時はすぐに「すっきりしたね」等優しく声掛けして、トイレでおむつを替えている。遊びや食事等で衣類が汚れた場合は「汚れちゃったね、とりかえよう」等と声を掛け、すぐに清潔なものに取り換えている。その日の子どもの体調に配慮して、活動している。</p>		
【A5】	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
<p><コメント></p> <p>子どもの自主性を大切にして、保育を行っている。園内では、子どもたちが好きなぬいぐるみやボール、ブロック等を自分で選んで、遊んでいる。創造性のある遊び等は、職員がさりげなく誘導している。2歳児には季節の製作等で折り紙をちぎったり、1歳児はシールをはがして貼り付ける等、月齢に応じた遊びができるよう環境を整えている。園庭に滑り台やトランポリン等を用意し、子どもたちがのびのびと活動できるように環境を設定している。</p>		
【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>0歳児は、情緒の安定を保ち、生理的な欲求を満たすことができるよう関わっている。毎日の「育児日記」を通して、保護者と連携し、子どもたちが安心して安全な生活を送ることができるよう配慮している。子どもたちの様子から気持ちを汲み取り、少しでも不安があるようであれば、抱っこしたり話し掛けたりしながら、情緒の安定を図っている。一人ひとりの生活リズムに合わせ、一日の活動や午睡ができるようにしている。それぞれの食事形態や食事量にて食事を提供し、満足した一日を送ることができるようにしている。</p>		
【A7】	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>1、2歳児は、自分でやってみたいという気持ちを大切にして、子どもの気持ちに寄り添いながら、関わっている。室内は裸足での保育を行っているが、2歳児は卒園を視野に入れ、後期からは室内履きを使用している。また、食事の後に歯磨きをする等、自分でできることを多く取り入れ、なぜ歯磨きが大切なのか、絵本からも学んでいる。合同保育では、下の子どもの面倒をみる等、いろいろな人との関わりの中で、優しさや思いやりの気持ちを育てている。</p>		
【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	c
<p><コメント></p> <p>乳児(0、1、2歳児)のみを対象とした保育所のため、評価外とする。</p>		

【A9】	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>障害があっても「みんないっしょ」の基本理念を掲げている。職員が障害の研修に参加し、研修で得た専門的知識を職員間で共有している。対象が0～2歳児のため、障害の判定は難しい面もあるが、発達がゆるやかな子どもがいるため、できないことをカバーしながら、自分でできるようにサポートしている。また、子どもの発達に関して、保護者から相談がある時には、話をよく聴き、子どもの発達は個人差が大きいこと等を話しながら、相談に乗るようにしている。</p>		
【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>長時間保育を実施し、職員が早番・中番・遅番の変則勤務で対応している。現在、朝7時から19時までの長時間保育の子どもが2～3人いる。長時間保育を希望する場合は、当日の朝、保護者が長時間保育希望用紙に記入している。長時間保育の子どもには、18時30分にお菓子や飲み物を提供している。夕方は、子どもが特に不安定になる時間帯で、事故が起きる可能性もあるので、職員は子どもとの接触を多くし、一緒に遊びながら、安全に配慮して保育にあたっている。</p>		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	c
<p><コメント></p> <p>乳児(0、1、2歳児)のみを対象とした保育所のため、評価外とする。</p>		
A-1-(3) 健康管理		
【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
<p><コメント></p> <p>安全・健康管理マニュアルを作成し、常に子どもたちの健康状態を把握しながら保育を行っている。乳児は健康面で細心の注意が必要であるため、朝の視診や検温(平常より高い場合は30分ごとに検温している)、様子をチェックして記録している。登園後発熱した場合は、すぐに保護者に連絡し、受診してもらっている。SIDS(乳幼児突然死症候群)については、うつ伏せ寝をしない等、保護者にも理解してもらえよう、玄関に掲示したり、声掛けを行っている。午睡時は、0歳児は5分ごと、1、2歳児は10分ごとに、左・右、あおむけの状態も確認して、チェック表に記入している。職員全体で子どもの健康状態を把握し、保護者にもお便りや掲示物等で周知するようにしている。</p>		
【A13】	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	a
<p><コメント></p> <p>市内の小児科と歯科を嘱託医とし、年2回、健診を行っている。健診の結果は、保護者に報告し、職員も診断結果を共有している。乳歯がどれだけはえてきているか等を把握し、離乳食の段階を変えていく等の対応を行っている。</p>		
【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>ミルクから離乳食に移行する段階では、アレルギーの有無がはっきりしないため、離乳食開始前に、家庭でお粥を2回以上、献立で出る食材も2回以上食べてもらい、チェック表を確認して、離乳食を始めることとしている。保護者の説明や医師の指示に沿って、担当と調理が毎日連絡を取り合い、チェックをしながら離乳食を提供している。毎日の調整会議でアレルギー児の食事を確認し、報告、連絡、相談を行っている。アレルギーの子どもの食事は、できるだけ普通食に似たものを提供している。アレルギー児の一覧表を作成し、配膳の時に職員が再度確認できるよう貼り出している。</p>		

A-1-(4) 食事		
【A15】	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している。	a
<コメント> 玄関に今日の食事のサンプルを置き、子どもがどんなものを食べたか一目でわかるようにしている。本日の食材の生産地も貼り出している。落ち着いて食事ができるよう静かな音楽を流し、子どもたちは手を洗い、自分の椅子に座り、「いただきます」の挨拶の後、楽しく食事している。職員は食事中のこどもを見守り、自分ではまだ食べられない子どもにはその子どもにあった介助をして、子どもたちと同じものを一緒に食べている。献立は季節感のあるものを、月齢にあった切り方や味付け等を工夫して提供している。アジサイゼリーやお月見ゼリー等、見た目も嬉しいメニューも提供し、家庭でも作ることができるように、保護者がレシピを自由に持ち帰ることができるようにしている。		
【A16】	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<コメント> 法人全体で、子どもたちには安心できる食材を、日本の食事を提供するように努めている。食材の産地も保護者に示している。子どもたちは麦ごはんを何回もお代わりし、野菜や酢の物も、すすんで食べている。子どもたち個々の発達状況や体調等を考慮し、形状も工夫して食事を提供している。調理の職員も、食事の時は子どもたちの食べる様子を確認し、子どもたちとの関わりを深めている。		

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
【A17】	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<コメント> 保護者とは「育児日記」にて、毎日の家での様子や保育園での様子を報告し合い、家庭との連携を密に取っている。また各クラスのホワイトボードに、今日一日の活動を記入し、保護者に伝えている。子どもの登園、降園時には、できるだけ多く話ができるようにしている。また、保護者からの相談等は、時間を掛けてゆっくりと話ができるようにしている。保育参観や運動会等、保護者と子どもが触れ合い、楽しむことができる機会を作るようにしている。		
A-2-(2) 保護者等の支援		
【A18】	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
<コメント> 子どもたちの毎日の登園、降園時には、保護者と子どもの様子等を細かく話し合っている。保護者からの相談には、主に園長と主任が対応している。		
【A19】	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<コメント> 虐待の疑いがある子どもについては、子どもの身体や様子を観察し、必要であれば通報することとしているが、これまで該当するケースは上がっていない。毎日の視診やおむつ交換、沐浴、発育測定等にて、子どもたちの様子を観察するようにしている。虐待等のこどもの権利侵害については、研修で得た知識を職員間で共有している。		

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
【A20】	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<p><コメント> 職員会議の場で、毎月の月案やカリキュラムの反省等を話し合い、実践の振り返りを行って次につなげている。保育所保育指針に基づき、職員の倫理観、専門職としての自覚等を、園長から職員に話している。また、保育の実践の振り返りとして、年1回、自己評価を行っている。</p>		